

好きなことがある人を応援したい

こんにちは、ゆいです。

2020年始まりでしたね。

今回は、初心に戻って、

「どうしてネットビジネスを学ぼうと思ったのか？」

という話をしたいと思います。

一番大きな理由は、

「幸せな人を増やしたいから」

「好きなことがある人を応援したいから」

これに尽きます。

ネットの知識があれば、

好きなことで仕事をしてる人のビジネスを
もっと飛躍させることもできるし

せっかく好きなことやスキルがあるのに、

「これじゃ食べていけないから」

と諦めて違う仕事をしてる人が
好きなことで生きていけるようにもできる。

もちろん、それで食べていきたいなら
ある程度分野は選ぶ必要があるけど。

(マツボックリみたいに商品化するのが難しいものもあるし、

うまい棒みたいな薄利多売のビジネスは個人がやるべきじゃない)

「好きなことで誰かの役に立つ」って

人を最高に輝かせるし、幸せにつながると思う。

だから、ビジネスを通して

「好きなことで生きていける」という状態を作ることは、
人生の幸福度をめちゃくちゃ上げてくれると思う。

わたし自身は「好きなこと」が見つからなかったからこそ思うけど
好きなことがあるって素晴らしいことだと思う。

その人にしか生み出せないものがある、と思う。

わたしも子どもの頃から、

夢中になれるものをずーっと探してきた。

ピアノ。漫画。語学。仕事。チーズ。旅行。アウトドア。

どれも好きだしそれなりに面白いけど

「わたしはこれをやってる時が超幸せ！」

と言えるものは見つからなかった。

夢中になれるものに出会ふのってなかなか難しい。

だから、「自分はこれが好き！」と夢中になれるものがあるのは
本当に素晴らしいこと。

世の中には、

「そんな夢みたいなこと言ってたら、食べていけないよ」

「成功できるのはほんの一握りの才能ある人だけ」

「家族もいるんだし、現実見なきゃ」

と言う人も多いけど

せっかく見つけたその「好きなこと」を

他人の言葉や、一見もっともらしい常識で諦めてしまうのは

本当にもったいないと思う。

わたしのまわりも、好きなことを仕事にして
社会貢献している素敵な人がたくさんいる。

「中学生の頃からプログラミングが大好きだった」

と言って、システム開発の仕事をしている人。

「子どもの頃からシルバニアファミリーが好きだった」と

建築や不動産の仕事をしている人。

「一流のクリエイターのコンテンツに触れているときに最高に幸せ」

と言って、コンテンツビジネスをしてる人。

「子どもの頃からサッカーが好きで、

サッカーを軸に生きていきたい」とサッカーの仕事をしている人。

「20歳の時に行った海外旅行がきっかけで旅行が大好きになった。

非日常の世界に触れると、日常がこんなに豊かになるんだって感動した」

と、35歳の今でも現役のバックパッカーで

旅行の仕事をライフワークにしている人。

そんなふうに「これが好き！」と夢中になれるものを

持つてることが、本当に本当に羨ましい。

わたしは経済的にあまり余裕がある家ではなかったのて

子どもの頃から、妙にサバイバル意識が刷り込まれてしまつてて。

純粹に好きなことを楽しむことが、

なかなか出来なかった。

高校生のとき、「受験のために塾に行きたい」と言つても

「そんなお金がどこにあるの？勉強は学校の先生に聞きなさい」

と両親に一蹴されたり。

友達に誘われたスキーに

自分だけお金がなくて行けなかったり。

「お金がなくてやりたいこともやれないのは嫌だ」

「お金がないと自分も家族も守れない」

と、中高生のときには、強烈に思っていた。

小学生や中学生のときは、

漫画やピアノが大好きだったけど

「漫画や音楽じゃご飯食べていけないんだよね」

と言って、高校は英語の進学コースを選ぶような

超現実的な中学生だった。

大人になってからも、

英語とか会計とか、会社で使える知識ばかり勉強してて。

今思えば、本当にもったいなかったなあ。と思う。

ちなみに漫画や娯楽って、
ビジネスやる上では学べるのがめちゃくちゃたくさんある。

たとえば、漫画『ワンピース』はわたしも大好きだけど
1997年からもう20年以上も連載してて、
累計発行部数は4億6000万部。

(歴代1位。ちなみに2位はドラゴンボールと
NARUTOで2億5000万部)

ワンピースがマジですごいなって思うのは
「別になくても生きていける」のに、
これだけたくさんの人が、
お金を払って夢中になって読み続けること。20年間も。
そして、世界中の人が感動したりワクワクしたり
ワンピースの世界から影響を受けること。

「人が何に夢中になるのか？」

「何に感動するのか？」

「何を楽しいと思うのか？」

これを知ってることは、ビジネスでも本当に大事。

で、話を戻すと。

どうしてわたしが「好きなことがある人」が好きなのか？

それは、「好きなものに夢中になっている人」

が創り出す作品に感動するから。

その人の想いと、

これまでのストーリーと、

今まで積み上げてきた知識や技術の集合体。

そういうものに触れるのが、すごくすごく好き。

例えば、建築が大好きな友人の作った家を見に行ったとき。

「誰にどんな時間を過ごして欲しいのか」というコンセプト。

考え抜いた空間設計。

(少しの違いでこんなに変わるのか！と毎回目から鱗。

ここまで考えて作ってる業者、市場には意外とない)

床材の一つ一つ。

壁のタイルも、鏡も、照明も、スイッチも、

一つ一つに血が通っていて、愛情がこもっていて。

「この洗面台広くて明るくていいね」

「ドアが開放的で素敵」

って一言言うと、

「この広くて開放感のある洗面台にしたかったから鏡は特注で、

ちなみにこのライトは顔色がきれいに見えるやつを採用してて....」

「このドアは...」

「このトイレは...」

って、一つ一つのアイテムに関する

こだわりやストーリーを怒涛の勢いで話してくれる。笑

これを聞くのが楽しい。

本当に素敵な仕事だなんていつも思う。

建築や不動産の専門家じゃないから、

専門的なことはわからないんだけど。

何かが琴線に触れて、ちょっと泣きそうになる。

すごく尊敬している料理人の人もそう。

純粹に料理が大好きで、

お客さんに楽しんで欲しい。喜んで欲しい。

彼のお店は、そんな想いがいっぱい詰まった空間。

「このお店に来てもらったからには、

お客さんにポジティブな気持ちになって帰って欲しいんです」

と話す一流のシェフが紡ぎ出す料理は、

生きた芸術を体験している感覚。

彼の料理に関する知識や、

食材のストーリーを聞かせてくれるのも面白い。

「ジビエを狩るときは、絶対に獲物に気づかれてはダメなんです。

気づいて逃げようとしている獲物を打つと、獲物自身の体温で

お肉が傷んでしまうので、気づかれないように仕留める。

いつ、誰が、どこで、どこを撃って仕留めたのか、

全部データ管理してます。

ちなみにエゾシカの腿って2分で解体できるんです。

お肉を切るんじゃなくて、筋膜に沿って解体するんですよ。」

「お豆やジャガイモは、1年間雪の下で寝かせて出荷すると

糖度が上がって、こんなにホコホコの食感になるんですよ」

食材も料理も調味料も知り尽くしたシェフの話を

聞きながら食べるお料理は、最高のエンターテイメント。

「本当に料理が好きなんだなあ」

「この仕事に誇りを持っているんだなあ」

っていうのがひしひしと伝わってくる。

料理を食べたときに、

「あ、これはこの人の料理だ！」

ってというのが不思議と分かってしまう。

食の世界のプロのすごさを実感したなあ。

それから、もう8年近く通っている大好きな天ぷら屋さん。

ご夫婦でやってる小さなお店だけど、

ここのご主人と奥さまも本当に素敵。

このお店でびっくりしたのは、

2回目のお店の予約をしたとき、「もしかして、ゆいさまですか？」

と電話口で奥さまに言われたこと。

「そうですけど、よくわかりますね」

と、びっくりして聞き返すと

「うちのお店にお客さんが来てくれるのが本当に嬉しくて。

お客さんの声は勝手に覚えちゃうんです」

と。

ご主人もいつ行っても楽しそうに仕事をしていて

「最高ですよ。

自分の料理をお客さんが喜んでくれて、

また自分の料理を食べるために来てくれるっていうのは」

って話しながら目の前で揚げてくれる天ぷらもお料理も、

とびきり美味しい。

早朝の仕入れから、深夜の片付けまであって大変な仕事なのに、

料理とお客さんへの愛がひしひし伝わる。

仕事ってこういうことだよね（；；）

って、そこに行くたびに

お腹だけじゃなくて、胸もいっぱいになって帰ってくる。

好きなものに夢中になって取り組む姿。

もっと上を目指して努力する姿。

自分の仕事が世の中の人に喜ばれて、自信を得ていく姿。

本当に美しいなって思う。

これほど人を輝かせるものはないんじゃないかな。

こういうのが大好きで、つい、いろんなところに顔を出してしまう。

「業界違うのに、好奇心旺盛だね」

って人にはよく言われるけど、

自分が「この人一流だ」って尊敬できる人の作品は

どんな業界でも本当に面白い。

わたしは舞台を観に行くのもすごく好きなんだけど、
舞台上で役者さんの本気の演技を観たあと、
フツフツとパワーが湧いてくる感覚と似てる。

「人ってすごいな。一流ってすごいな。わたしもまた頑張ろう！！」

ってめっちゃ元気になる。

本気の人が好きなんだと思う。

それが、料理でも、家でも、コンテンツでも、旅行でも。

だから、せっかく見つけた「好き」は大事にして欲しい。

ずっとそう思っている。

でも、現実問題、

「好きだけどこれじゃ食べていけない」

って諦めてしまう人はすごく多い。

例えばわたしの弟は、

アパレルの業界で働いていて。

子どもの頃から、

ゲームばかりしてて必死で何かを頑張ることのなかった弟が、

「洋服のデザイナーになりたい」

という目標を見つけた途端、別人のように勉強を始めた。

専門学校に行って

クラスのリーダーになって

毎日寝る間も惜しんでデザインや製作をやって

コンテスト出て賞も取るようになって。

画像編集を覚えたいって、フォトショップ買って。

弟の描いたデザインや作品を見たとき

「あいつにこんな力があつたのか」

「人って好きなものを見つけると変わるんだなあ...」

って震えた。

上京して「デザイナー」として採用された会社で

「人が足りないから、やっぱり営業をやって欲しい」

と言われたときは

入社3ヶ月でその会社をアッサリ辞めた。

それが良いかどうかは置いておいて、

「自分はこれが好きなんだ。これをやりたいんだ」

っていう強い気持ちはすごく伝わってきた。

それでも、

アパレルの世界でデザイナーとして食べていくのは
やはり簡単じゃなかった。

弟は色盲だったから、入った会社の上司に

「色盲はデザイナーとしては致命的」だと指摘されて
あんなに好きだったデザインも、結局やめてしまった。

結局デザイナーは諦めて

アパレル業界の違う職種で働くことになったけど

「商業目的で、安く雑に洋服作って

誰にも大事にされずに、誰にも愛されずに

簡単に洋服が捨てられていくのが悲しい」

って話してるのを聞いて、すごい切なかったな。

その業界の中にいるからこそ見えてしまう厳しい現実とか

対象への愛情があるからこそ、

その業界で生きていくことに限界を感じてしまう部分はあるんだと思う。

でも、

せっかくそれだけ愛情を注げるものがあるのなら

それはやっぱり大事にして欲しい。

わたしもネットビジネスを学ぶまではわからなかったけど、

ネットビジネスの知識さえあれば、

それでも好きなことで生きていくことは出来るから。

もちろん、

「自分が作りたいもの」を自己満で作るんじゃなくて

「お客さんが欲しいもの」を作る必要はあるけど。

自分が心を込めて作ったものをお客さんに届けて

「ありがとう」って心から喜んでもらうことは出来るんだよ。

それをすごく伝えたいなあ。

今の業界のルールの中で限界を感じるのなら、

自分で自分のお客さんになってくれる人を作ればいい。

今はインターネットがあるから

自分で作った作品も、

自分の想いやストーリーも、

ファッションの知識も、

自分で世の中に発信していくことができる。

例えば、

有名なメンズファッションブロガーでMBさんという人がいる。

彼は自分のファッションの知識をブログやメルマガで発信して

「最速でおしゃれに見せる方法」

を伝えて、年商1億円以上を稼いでいる。

例えば、彼がやっているように、

自分のファッションやデザインの知識を

世の中の人々の悩みを解決するために発信する。

ブログやインスタで

デザインやファッションの専門家の視点から

安くてもおしゃれに見えるオススメのコーディネートを紹介して

「洋服の選び方がわからない」

「おしゃれをしたいけどお金がない」

という人の悩みを解決したり。

ファッションの知識を体系化して
自分に似合う洋服の選び方を教えたり。

自分でデザインや製作ができる、という強みを活かして
インスタやブログで自分の作品を投稿したり。

単に作品や役立つ知識を紹介するだけでなく
自分自身のデザインへの想いや価値観、
これまでの経験やストーリーも発信していく。

メルマガや LINE@に誘導して
自分の発信に共感してくれる人が集まったら
まずは簡単にオリジナルの携帯ケースをデザインして
売ってみるのもいい。

(1000～1500 円くらいで簡単に作れる)

ファンが増えてくれば、

そのお客さんのために一点物の洋服の製作をしてもいい。

YouTube で着こなしの解説をしたり、

製作の過程をレポートしていくのもいい。

クラファンをやって資金を集めて

自分のブランドを立ち上げてもいい。

ある程度のフォロワー数や読者数があれば、

コラボして商品開発したりなんかもできる。

とにかく大事なのは、

自分の持っている知識やスキル、コンテンツを発信して

自分のファンを作っていくこと。

こんなふうになれば、

自分の好きなことでビジネスを始めるのに
コストはほとんどかからない。

ブログは月 1000 円くらいあれば
サーバー借りてすぐ立ち上げられるし
インスタグラムも YouTube も無料で使える。

インターネットの恩恵って本当にすごいと思う。

「自分が好きなものに夢中になって、
誰かがそれに価値を感じて喜んでくれる」

こんな体験ができれば、
きっとすごく人生の幸福度上がるし
自信になると思うんだ。

だからわたしは、

ネットビジネスの世界にめちゃくちゃ夢を感じるし
いろんな人の「好きなもの」が潰されない世界を
作りたいなあとと思う。

わたしが「好きなことを頑張ってる人」が好きなのは
母の影響も大きい。

わたしの母は 18 歳から競技ダンスをしていて
ダンスのパートナーだった父と 23 歳のときに結婚した。

母の父（わたしの祖父）はめちゃくちゃ厳しくて
古い考え方の人だったから、

「女が大学なんて行かなくていい」

「就職先は銀行か市役所のどちらかしか認めない」

と、本当は行きたかった音大も、就職先も、
まったく認めてもらえず、ずっと祖父の言いなりだった。

そんな母が、

初めて祖父の制止を振り切って始めたのが競技ダンスだった。

わたしが物心つく頃からずっと、母はダンスに打ち込んでいた。

朝 5 時に起きて家族全員分のお弁当を作り、

8 時～17 時まで仕事に出かけて、

帰宅したら夕食を作って家族に食べさせ、

20 時～24 時まで父と一緒にダンスの練習に出かけていく。

そんな生活を 17 年続けて、

わたしが高校生するとき、41 歳でプロの選手になった。

母は体が弱かったから、

時々無理をして貧血で倒れることもあったけど

ダンスが好きで頑張る母の姿を、

子どもの頃からずっと見てきた。

月に1、2回ダンスの大会があるときは

わたしが一番前の席を陣取ってビデオ係をしていた。

家に帰ってくると、父と母がビデオを何度も見直しながら

あーだこーだ議論してて。

話の内容はサッパリ分からなかったけど

母の生き生きした顔が、すごくすごく嬉しかった。

わたしの母は、内向的で人見知りで、

病的なくらい自分に自信がない人だった。

めちゃくちゃ厳しかった祖父の影響だと思うけど、

そんな母が、初めて祖父に逆らってまで続けたダンス。

母はよく祖父と喧嘩になって

「子どもに寂しい思いをさせて申し訳ない」

って泣いてたけど、

わたしは頑張る母の背中から多くを学んだ。

好きなことに打ち込む母を見てるのが嬉しかった。

親が子どものためだけに生きる必要なんてない。

というか、好きなことを頑張る親の背中ほど

子どもにとってまぶしいものはないんだよ。

努力することの重要性も、

コツコツ続けることの大切さも、

好きなことがあることの素晴らしさも、

全部母の背中に教えてもらった。

「ゆいも 30 歳までに好きなことを見つかったらラッキーね」

って母は言ってた。

わたしは残念ながら

「好きなこと」は見つけられなかったけど、

そのかわり、「好きなことを頑張ってる人」が大好きになった。

だから今はビジネスが楽しくて仕方ない。

「好きなことを頑張ってる人」の応援ができるし

誰かの「好きなこと」が潰されないように、守ることができるから。

これはこれで悪くないなって思う。

そういえば、

商社で資源開発やインフラ関係の仕事を

やりたいと思った理由も一緒だった。

「好きなことを頑張ってる人が好き。

だから、日本の人が好きなことに思い切り打ち込めるように

その土台を作りたい」

と思って選んだ。

あと、大学生の時に「坂の上の雲」にめちゃくちゃ感銘を受けて、昔の人が命がけで残してくれた今の日本を、

小さくてもいいから「幸せな国にする」ための一翼を担いたい。

と思ったことも理由。

「坂の上の雲」とか、「永遠のゼロ」とか、

過去の戦争を舞台にした作品を見るたびに思うけど、

好きなことを追いかけられるようになった現代は

本当に良い時代だと思う。

だからこれからも、ビジネスの知識をどんどん学んで

「誰かの好きなこと」でいっぱいの世界を作りたいな。と思う。

この初心を忘れず、2020年も頑張りたいと思います。

終わり